

並木っ子の主体的に学ぶ力を伸ばすために 2



～家庭で できること～



あいさつはコミュニケーションの第一歩！家族同士でもあいさつをしましょう！

今回の学習状況調査の結果、並木っ子はとても素直ですが、人づきあいにやや消極的な子が多いことがわかりました。21世紀の社会に求められる人材には、コミュニケーション力が欠かせません。あいさつはコミュニケーションの第一歩です。声に出すからこそ、思いが伝わります。朝、登校するお子さんを「いってらっしゃい」と元気に送り出してあげてください。家族同士のあいさつが習慣となっている子どもは、気持ちも安定しています。子どもに友だちづきあいを覚えさせるには、まずあいさつをする習慣を身に付けさせることが大切です。今まで以上に意識して、「おはよう」「いってきます」「こんにちは」「ありがとう」「ごめんなさい」「ただいま」など、家族同士でのあいさつを心がけてみてください。



子どもが発言する場をつくりましょう！自分の言葉で伝えさせることが大切！

「トイレ…」「先生、教科書…」など、単語だけしか発しない子がいます。きっと家庭の中では、単語だけでも通じてしまい、おうちの方も特に聞き返すことをしないでしょ。ぜひ、子どもたちに最後まで言わせ、最後まで聞いてあげてください。単語だけで通じるようになってしまっは、子どものコミュニケーション能力は育ちません。会話のできない人になってしまいます。

さらに家庭の中だけではなく、外出した際にも子どもに質問をさせる機会をつくってあげてください。例えば、デパートなどであえて「トイレはどこですか」と子どもに聞かせてみましょう。「トイレ…」だけでは、相手に伝わらないことに気づくでしょう。学校でも子どもたちの話に最後まで耳を傾けたいと思います。また、忘れ物をしたり、失敗したりした時も、ごまかしたりせずしっかりと自分の言葉で伝えられる子どもを育てていきたいと思っています。

子どもにも家族の一員としての役割を与えましょう

昔と比べ、家族を構成する人数が減ってきています。家のことは互いに分担して助け合っていかなければ、家族の関係はうまくいかなくなります。家族の人数が減っている分、一人ひとりが果たす役割も大きくなっています。ぜひ、子どもにも家族の一員として役割を与えてください。お風呂そうじでも、庭そうじでも、お米とぎでも、ごみ出しでも子どものできる範囲でかまいませんので、毎日の仕事として与えてください。家庭での仕事は、子どもにしっかりとした生活能力を身に付けさせるために必要なものですが、同時に学校の勉強にもつながります。

例えば、牛乳パックで体積や容積を学んだり、スーパーマーケットでの買い物で計算や野菜の産地を学んだりすることができます。このような生活の中での学習は、机に向かってする勉強の何倍も効果を発揮します。家庭での仕事も勉強と同じで、本人がやる気になることが一番！うまく乗せて、楽しく仕事をさせて、できたら思いっきりほめてください。知らず知らず、学習も進みます。



ニュース番組を親子で見ましょう！

私たちの生活は社会の動きと無関係ではられません。今、世の中で何が起きていて、これからどう動いていくのかを知る手がかりとなるのが新聞やテレビのニュース番組です。世の中の動向は、学校の勉強とも決して無関係ではありません。ぜひ、家族でニュース番組を見ながら子どもと語り合ってみてください。社会の動きに関心を持つことで、学校での学習にも興味が広がっていきます。また、昨年度もお願いしましたが、リビングやテレビの横に地球儀や地図、辞書を置いて、気になること・わからないことがあった時には、すぐに調べる習慣を身に付けましょう。親が自ら、地球儀で国を探したり、辞書で調べたりする姿を見せると、子どもたちも地球儀や辞書に親しむようになります。

家庭学習の習慣を身に付けましょう！（どうしたら身に付けられるの？）

どのご家庭でも子どもたちに学習の習慣を身に付けさせたいと考え、「勉強しなさい！」「宿題しなさい！」とくり返しているのではないのでしょうか。でも、なかなか自分から進んで勉強するようにならずに頭を悩ませている方も多いのでは…。どうすれば、子どもが「自分からどんどん勉強する」ようになるのでしょうか。なかなか勉強に取り組めないお子さんには、次の方法を試してみてもいいかがですか。



① 「一緒にやろう」 親の関わりが大切！

子どもが勉強するかどうか、親の関わり具合にかかっています。特に低学年、中学年で、親の関わりが大きく影響します。なかなか時間がとれないかもしれませんが、子どもの隣に座って一緒に問題を解いてみましょう。

② 「短い時間から始めよう」 子どもの集中力は短時間しか続かない！

子どもによって個人差はありますが、子どもの集中できる時間は意外と短いものです。ですから、集中が続かない子どもの場合、一度に長い時間の学習をさせるのではなく、短い時間で細切れにして取り組ませることも有効です。数分単位で、計算・漢字と切り替えてみたり、間に1分間の休憩をはさんでみたりしてはどうでしょう。タイマーで時間制限すると一気に集中力が増す子もいます。キッチンタイマーを使ったり、実際に時計を見て「〇分までやってみよう」と声をかけたりしてみてください。また、時間ではなく、問題数を区切って、「とりあえず5問」と声をかけると「やろうか…」という気になる子もいます。子どもはゴールが見えているとがんばれます。「勉強しなさい」をくりかえしているより、そんな方法を試してみませんか。そして、少しずつ時間を延ばしていけばよいのです。

③ 「少しでもできたら、たくさんほめてあげよう」 プラスの声かけが効果的！

子どものやる気を上げるには、とにかくほめてあげることです。子どもにとって必ずしも「宿題は、できて当たり前」ではありません。でも、ついついできないことばかりが目がいってしまいます。「どうしてこんな問題ができないの？」と子どもを責めていませんか。まずは、「できていること」に目をむけてください。1問できただけでも、「よくできたね！」と最初は大げさにほめてください。そして、ぜひ丸つけをしてあげてください。全部終わってから、大きな丸を1つつけるのではなく、1問ずつ丸をつけてあげてください。子どもは、丸をつけてもらうことが大好きです。「まだ、できないの？」をプラスに言い換え、「ここまでできるようになってすごいね！」と声をかけてあげてください。